

120801 ラミーカミキリ

南河内の水田近くの道を歩いていると…

草むらに「コビト」のような生きものを見つけたのです!

大きさは1.5 cmくらいの、「ラミーカミキリ」という小さな甲虫でした。
近寄ってよく見ると…

“丁寧にお辞儀しようとしているパンダ” みたいですし、
また、“礼服を着てグラスで気取ったガチャピン” のようにも見えるのです。

体色は、薄い青色と黒色にきれいに色分けされており、体表にはビロードのような質感が感じられます。

さて、このカミキリムシ、
もともと日本にいた種類ではなく、明治初期に中国から輸入された「ラミー」という植物に付いて入国してきたらしいのです。

「ラミー」は繊維の原料となる植物で、第二次世界大戦中にラミー栽培が盛んになったことから分布域を広げたようで、最初は長崎港から入ってきたと考えられていますが、現在では関東地方でも見ることができます。

幼虫の食草は、ラミー、カラムシ、ムクゲなどですが、成虫もこれらの葉を食べています。
(成虫は葉脈だけを裏側から線状に食べるという習性を持っています)

冬の平均気温が4℃の地域までに分布が限られていますが、何故か「サナギ」ではなく「幼虫」で越冬することもその理由の一つでしょうね…



